



ちよい旅 彩 の国

第3回 妻沼聖天山

今回のちよい旅“彩の国”は、熊谷市にある妻沼^{めぬま}聖天山^{しょうてんざん}を訪問します。「日本三大聖天さま」の一つとして知られており、特に縁結びのご利益があり、夫婦の縁はもちろん、家内安全、商売繁盛、厄除け開運、交通安全、学業進学などのあらゆる良縁を結んでいただくとされています。

また、境内には、埼玉県唯一の国宝建造物である「御本殿」（聖天堂）のほか、数々の美しい建物が点在しています。“聖天さま”の愛称で親しまれている妻沼聖天山の見どころを紹介します。

歴史

妻沼聖天山（歓喜院）は、治承3年（1179年）に、武蔵国長井庄（熊谷市妻沼）を本拠とした武

将^{さねもり}斎藤別当^{だいしょうかんぎてん}実盛公が、大聖歎喜天を奉り、聖天宮を開いたことが始まりとされています。その後実盛の次男である斎藤実長が出家して良応僧都となり、建久8年（1197年）に聖天宮の修復と別当坊歎喜院長楽寺を建立。中世には忍城主、徳川家康と庇護を受けましたが、寛文10年（1670年）の妻沼の大火で焼失してしまいました。

現存する御本殿は享保20年（1735年）から安永8年（1779年）にかけて再建されました。再建にあたっては、幕府主体の工事ではなく、信徒や周辺住民の寄進により行われました。

また、平成15年（2003年）から平成23年（2011年）まで本殿の修復工事が行われ、華麗に彩られた装飾建築が蘇りました。平成24年（2012年）7月9日には、御本殿（聖天堂）が国宝に指定されました。

見どころ

①御本殿（聖天堂）【国宝】

奥殿・中殿・拝殿からなる権現造の建物で、奥殿は延享元年（1744年）、中殿が宝暦10年（1760年）、拝殿は宝暦6年（1756年）に、大工棟梁の林兵庫正清を中心とし、日光東照宮の修築などに腕を発揮した優秀な職人やその弟子たちが数多く関わり建立されました。



斎藤別当実盛公像



① 御本殿の拝殿（写真上）
と奥殿（写真右）



② 貴惣門



③ 四脚門



④ 仁王門



⑤ 本坊本堂

本格的装飾建築で、特に奥殿は、多彩な彫刻技法が駆使され、色漆塗や金箔押などによる極彩色を施してきらびやかに飾られており、「埼玉日光」とも呼ばれています。

②貴惣門【国指定重要文化財】

妻側から見ると、3つの重なる破風からなっているのが特徴です。全国に4例しかない特殊な屋根の形をしています。規模の大きさでは、他に例はありません。門の右側には毘沙門天、左側には持国天の像があります。

③四脚門（中門【熊谷市指定文化財】

江戸初期の災火の際に唯一焼けずに残っていた

聖天山最古の建造物で、400年前の姿を残しています。

④仁王門【国登録有形文化財】

万治元年（1658年）建立、明治27年（1894年）再建。門の左右に仁王（金剛力士）像が配置されている。向かって右が口を開けた阿形、左が口を結んだ吽形。

⑤本坊本堂

建久8年（1197年）、実盛の次男である実長（出家して良応僧都）により、聖天堂の別当坊寺院として開創。ご本尊にお仕えする行者の修行の場でもあります。

